

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600116		
法人名	株式会社 赤坂台介護サービス		
事業所名	グループホーム喜ら里 1F		
所在地	愛知県豊川市赤坂町北平山51-5		
自己評価作成日	令和 2年 8月31日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2392600116-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「キラリとかがやく一日をみなさまとともに」をモットーに、利用者様と職員が輝ける一日を過ごせるよう、利用者様へのおもてなしの心を忘れずに、職員自身も活き活きと働ける職場作りを務めております。地域のボランティア様のレクなどの手厚い協力もあり、活気ある日々を過ごされています。開設時より看取りを実施、また、近隣の医院に依頼し体調不良時等に迅速に対応できる体制を整えております。□
□
□
□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、「自分の家族が入ったら幸せに暮らせると思えるようなホームにしたい」という思いで支援している。利用者との真摯に向き合い、家事や創作活動を利用者の状態に合わせて一緒に行い、平穏な生活の中で、時には刺激を与えつつ、日々の暮らしを支えている。法人全体で地域との付き合いをしており、敷地内にある併設の事業所と連携しながら地域福祉の増進に努めている。
現在はコロナ禍の影響で外出が困難であるが、法人が経営する喫茶店を貸し切り、月1回の外食を継続している。ボランティアにより手入れされた敷地内のプロバンス風の中庭を散歩するなど、感染対策をとりながら外出支援を行っている。家族との面会制限をしている中で、LINE電話による画面を通した面会を行うなど、工夫して家族の便宜を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「キラリとかがやく一日をみなさまとともに」を理念とし、職員は利用者様と共にアットホームで楽しい環境作りを努めている。月に1回行うケア会議で理念の再周知と落とし込みを実践している。	フロアの目にとまる場所に理念を掲示し、いつでも意識することができる。入職時研修にて説明すると共に、研修にも組み込んでいる。利用者の出来ることを継続できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアによる歌謡ショーや音楽療法など定期的に行われている。コロナウイルス自粛がはじまってから地域との関わりができていない。	地域ボランティアが慰問に訪れ、外出支援時の応援員としても協力していた。コロナ禍で直接利用者に関わることは断っているが、中庭の手入れは継続してボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス自粛がはじまってから地域との関わりができていない。認知症カフェも期間行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のボランティアや民生委員へ現状を報告、時にアドバイスを頂いたり、運営へ理解して頂いている。コロナウイルス自粛になってから議事録を送っている。	家族の中の年度ごと代表者が出席しており、設立当初から地域の住民の出席もある。ボランティアや地域包括支援センター、民生委員との情報の共有の場として活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東三河広域連合に相談や連絡をし、運営推進会議、開催時には地域包括支援センターの職員が毎回出席している。	地域包括支援センターとは、情報の共有が密に図られている。行政とは法人全体で連携し、不明点などの問い合わせや利用者支援の相談など、気軽にやり取りできる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で利用者様への拘束禁止について、月1回、虐待防止チェックシートの記入を行っている。夜間防犯の為の施錠はしているが、日中はユニット間や玄関の施錠はない。	3ヶ月ごとの委員会を開催している他、毎月職員に虐待防止チェックを行い、支援の振り返りを行っている。身体拘束をしないケアを具体的な事例として取り上げ、一日の利用者の過ごし方から背景を探って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待防止チェックシートの記入を行い、職員への虐待防止意識を浸透させるとともに、日常の利用者様との関わりの中で、ささいな身体や言動の変化にも注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネット等で取り寄せた資料で学ぶ機会を設けている。必要時には制度を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には面談を行い、疑問に対ししっかりとした説明をすることで利用に対する理解を頂いている。改定等の際は先に内容を紙面にて送らせて頂き、疑問に思った事は説明させて頂き、理解の向上に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に利用者様の近況を伝え、家族の意見の聞き取りを行っている。意見、要望があった場合、ミーティングや業務日報、毎月のケア会議などを通じて申し送り、職員間で共有を行っている。	毎月家族宛てに「喜ら里だより」を送付し、日常の様子を報告している。職員が写真付きで利用者の状況を追記することで、家族にホームの取組みや支援内容を把握してもらい、意見を言いやすい関係作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や困難な場面对応については、随時報告をしてもらっている。意見を出しやすい環境づくりを継続し、職員間での定期的な情報共有ミーティングも行い、日々の業務に反映させる環境を作っている。	会議では、職員から改善提案が積極的に出されることが多い。離設する利用者の安全確保のため、敷地内の外灯をセンサーで点灯させる案などが職員から挙がり、運営の改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回の人事考課において、昇給、賞与を決めている。職員との面談時以外でも適時、要望や悩みなども聞き、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や環境などにより、アドバイスをしケアの実践に努めている。また、困っていることなど随時相談できる環境を作り、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社や施設開設前研修の受け入れ、勉強・交流の機会がある。ケアマネなどの施設見学や訪問がある。運営推進会議には同業者の出席もあり、相互に参加し、相談もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず面談を行い、利用者様ご本人の生活歴や心身状態を把握し、希望や要望を聞く機会を設けて、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接時より、家族からの希望や不安、心配ごとなどを聞き取り、適確なサービスがすぐに行える態勢を整えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様に応じた適確なサービスが行える対応に努めている。他のサービス利用については、関係事業所の担当者を含めた話し合い等を行い、適切な支援を行える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事、レク等の日常生活を通して利用者様、職員だけでなく、利用者様同士でもお互い協力したり、気をかけたり、ともに暮らす者同士で良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各ご家族の思いや、ご家族の関係を理解した上で、随時相談、話し合いを行うことで、利用者様本人を支えていく為の協力関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービス・小規模多機能の以前より知る利用者様との交流や、イベント等に参加するなどの支援を実施している。新型コロナウイルス自粛がはじまってから他施設との関わりができていない。	近所の方や併設事業所の仲間などと交流が図れるよう配慮している。現在は面会自粛中であり、馴染みの人との交流はできていない。入居前からの趣味である編み物や縫物などを継続して取り組んでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体で行うレクを実施したり、利用者様同士の関係を考慮した上で、座席の配慮や、支障なく関わり合えるような環境づくりに努めている。重度の認知症の方は特に孤立しないよう、意識して関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も、ご家族から連絡があれば、随時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の業務日報や申し送り、定期的なミーティングなどを通じて、利用者様の日々の言葉やヒアリングでの思い、職員の気づきなどを共有し合い、話し合うことで、実践に繋げるようにしている。	認知症の行動・心理症状に対して、本人の日々の話を聞くように努めている。職員がじっくり話を聞く時間を作ることで、利用者の安心感が生まれている。把握した思いや意向は職員で共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントでこれまでの生活プラン等に配慮したプランを作成したり、日頃の利用者様との会話にしっかりと耳を傾け、把握、理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向や現状をもとに、「暮らしまとめシート」を作成し、職員は利用者様のできること、できないことに着目し、把握した上で、日々の介助や支援に携わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から挙げられた利用者様の日々の変化やモニタリングを通じて、家族や利用者本人様との話し合いで課題を挙げ、それに即した介護計画を作成している。更新、見直しなど月1の会議でユニット間の職員で話し合いを行っている。	介護計画の作成にあたり、利用者や家族の意向を確認し、日々の記録と照らし合わせて支援内容を検討している。モニタリングは全職員で行い、定期的な介護計画の見直しがなされている。	介護計画に支援内容の評価期間を明確化すると共に、実践されている支援内容も計画として組み込み、評価していける仕組み作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとにケース記録、バイタル表、食事量、服薬情報、サービス内容の変更、連絡事項などを記入し、職員間の情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ごとの心身状況、家族の介護状況の変化にも目を配り、また相談しやすい環境作りを念頭に、随時適切な介護サービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じたイベント(遠足、祭り)、外出(外食、買い出し、散歩)などに参加したり、地域のボランティアの方には適宜、支援して頂き、地域とは深く関わっていたがコロナ自粛してから外出できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望したかかりつけ医、もしくは専属の病院の往診という形をとっている。通院は家族対応。専属の病院医師と家族間のICも適宜行っている。特変時は必要に応じ職員が受診に同行、説明し、医師より適切な指示を仰ぐ。	協力医は月2回の往診と24時間体制で対応している。往診時には薬剤師も同行し、薬に関する相談に応じている。職員として看護師を配置しており、医師との連携が取りやすい体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は看護職員に報告し、対応している。医療面では、看護師より家族に連絡し、受診する場合は適切な指示を受けられるように支援すると共に家族からの相談も受け付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院の相談員、看護師に伝えている。また、専属の病院からも入院先に情報提供をお願いしている。入院中は必要に応じ訪問し、退院に向けた情報交換や相談を行っている。職員間でも入院利用者様の情報共有をはかり、退院後の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から随時利用者様の家族には終末期についての希望や意思の確認を行っている。主治医、各関係事業所と連携を図りながら事業所としてできる支援に取り組んでいる。	主治医や看護師との連携を図りながら、看取り介護の体制は整えており、状態変化があった場合には家族に意向を確認して対応している。他の施設等へ移る場合にも、家族への情報提供を行い、適切な支援が行えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングや研修を行い、利用者様の急変時の対応について話し合いや周知を図っている。また、各利用者について起こり得る事故や急変を想定し共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時は地域ボランティアの参加、協力を求め、常日頃より協力体制がある。訓練後は各職員が訓練の反省、全参加者から改善点を挙げるなどして今後活かすようにしている。今年度も地域住民と防災訓練を実施している。	併設事業所と合同での訓練も実施しており、具体的な事例検討をしながら改善に努めている。地域の防災訓練に職員と利用者代表が参加し、地域に災害時の協力を求める働きかけも行っている。	職員の人数が少ない夜間に災害が起きた時に、併設する事業所間での連携を図り、双方の安全確保が取れるような体制を構築することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの基本はさん付けで呼ばせて頂き、利用者様の尊厳に気をつけて支援している。介助時は羞恥心に配慮し介助を行っている。	利用者に関わる中で気づいた課題について検討を重ね、支援方法を見直して利用者の尊厳を欠かさないよう努めている。職員研修でもプライバシーの確保を取り上げ、権利擁護について考える機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導ではなく、利用者様本人が希望、要望を言いやすい環境づくり、雰囲気づくりに努めている。職員へもそのように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	工作、ゲーム、気の合う方との会話など、利用者様一人ひとりが希望する事、楽しみにしている事を把握し、選択できるようにしている。個々のペースに合わせた支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた身だしなみの支援、見守りを行っている。自己での判断が難しい方は、ワンピースにならぬよう、定期的な服の入替、衣類の選択が出来るように確認などの支援を随時行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房の職員が調理した食事を提供している。利用者様には食器拭き等行って頂いている。月一回のランチレクでは利用者様と職員と一緒に調理している。	隣接する共同厨房で調理した食事を提供しているが、ランチレクの時には利用者がそれぞれ役割を持ち、炊き込みご飯やおはぎなどを作っている。法人が経営する喫茶室を、貸し切りで利用しての外食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様ごとに適切な食事量、食事形態についての食事の名札を作成し、全職員が把握できるようにしている。食事量は毎回記録し、体調に応じて食べやすいよう、臨機応変に対応している。水分も体調に応じ確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品の準備、保管は事業所にて行い、自己にてできる方には声掛けと見守り、自己ケアが困難な方は程度に応じて、職員が介助し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、介助が必要な方には声掛けと誘導、自立している方は見守り、様子観察にて排泄感覚や失禁の有無を確認したり、必要に応じポータブルトイレを使用するなど、自立を主体に個別の適切な排泄支援に努めている。	排泄の自立が継続できるよう、声掛け・誘導などで対応している。失禁対応の座布団を用意するなど、利用者の羞恥心にも配慮し、布パンツで過ごしてもらえるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様ごとに排便状態や体調、服薬状況等を把握し、水分補給や運動、服薬等で便秘を改善できるように努めたり、頻繁に起こる方は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様、週に3回の入浴機会がある。利用者様の希望に合わせ順番等に配慮し、一人ずつゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう努めている。入浴剤を変えたり季節を楽しむ工夫をしている。	職員との世間話に花を咲かせたり、入浴剤を使ってリラックス効果を高めたりして、入浴の時間を楽しめるよう支援している。拒否のある場合にも無理強いをせず、清潔が保てるよう清拭を取り入れたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や個人の休息の取り方、タイミングなど、利用者様本人の希望や意見を尊重し、適宜休息できるようにしている。食後や体調が優れない時など、本人の気分に合わせて休息しやすい環境づくりや支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服薬情報を個人ファイルに保管しており、全職員が把握できるようにしている。日々の状態を記録し、薬が変わった時や副作用が疑われる時、症状の変化等は家族、薬局、薬剤師と連携を図って症状を報告するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとにできること、得意なことを配慮し家事の手伝いやレクを行っている。コロナ自粛により庭へ散歩等し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外へ出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気分に合わせて、戸外へ散歩に出かけるようにしている。希望があれば敷地内の別施設へ顔を出してそちらの利用者様との交流もできている。地域行事や外出にもボランティアの方の協力を得て参加できている。家族へ喫茶に誘い一緒に行く機会があった。コロナ自粛から敷地外は出ていけない。	コロナ禍以前は、ドライブを兼ねた外出支援として季節の花見(桜や蓮)を楽しんでいた。家族との外食や買い物なども積極的に支援していた。現在でも、中庭での散歩は継続しており、外気に触れて気分転換できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い出し時は、利用者様ご本人の希望をお聞きして、買い物をしている。外食時も、ご本人が食べたいものを選んでもらって食事を楽しめる環境づくりの支援を行っている。コロナ自粛から敷地外は出ていけない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の方から電話があったら電話している。利用者様から希望があったら電話をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節に応じて、利用者様が作成した壁飾りを掛けて季節感を感じていただいている。利用者様が心地よく過ごせるような環境の提供を全職員が常に心がけている。	利用者と職員が協力し、季節ごとに壁画を製作している。共有空間は利用者も一緒に掃除をしており、清潔感が保たれている。日中はリビングで過ごす利用者が多く、職員との会話を楽しむ場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性等考慮し、座席やレクなどの配置を決めている。ご本人の希望に合わせ居室でゆっくり休んで頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と協力し、自宅で使い慣れた物などを配置することで、少しでも自宅にいた時と同じ環境に近づけることで穏やかに過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた椅子やテーブル、テレビなどを持ちこみ、写真や作品を飾り、利用者個々に過ごしやすい部屋を作っている。各居室に収納スペースがあり、持ち物が整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多数の手すりを設置し、歩行時に安心して掴まれるようにしている。トイレも余裕のある広さを確保しており、利用者様の出来る範囲内の自立動作を行いやすいようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600116		
法人名	株式会社 赤坂台介護サービス		
事業所名	グループホーム喜ら里 2F		
所在地	愛知県豊川市赤坂町北平山51-5		
自己評価作成日	令和 2年 8月31日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2392600116-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「キラリとかがやく一日をみなさまとともに」をモットーに、利用者様と職員が輝ける一日を過ごせるよう、利用者様へのおもてなしの心を忘れずに、職員自身も活き活きと働ける職場作りを務めております。地域のボランティア様のレクなどの手厚い協力もあり、活気ある日々を過ごされています。開設時より看取りを実施、また、近隣の医院に依頼し体調不良時等に迅速に対応できる体制を整えております。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「キラリとかがやく一日をみなさまとともに」を理念とし、職員は利用者様と共にアットホームで楽しい環境作りを努めている。月に1回行うケア会議で理念の再周知と落とし込みを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアによる歌謡ショーや音楽療法など定期的に行われている。コロナウイルス自粛がはじまってから地域との関わりができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス自粛がはじまってから地域との関わりができていない。認知症カフェも期間行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のボランティアや民生委員へ現状を報告、時にアドバイスを頂いたり、運営へ理解して頂いている。コロナウイルス自粛になってから議事録を送っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東三河広域連合に相談や連絡をし、運営推進会議、開催時には地域包括支援センターの職員が毎回出席している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で利用者様への拘束禁止について、月1回、虐待防止チェックシートの記入を行っている。夜間防犯の為の施錠はしているが、日中はユニット間や玄関の施錠はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待防止チェックシートの記入を行い、職員への虐待防止意識を浸透させるとともに、日常の利用者様との関わりの中で、ささいな身体や言動の変化にも注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネット等で取り寄せた資料で学ぶ機会を設けている。必要時には制度を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には面談を行い、疑問に対ししっかりと説明をすることで利用に対する理解を頂いている。改定等の際は先に内容を紙面にて送らせて頂き、疑問に思った事は説明させて頂き、理解の向上に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に利用者様の近況を伝え、家族の意見の聞き取りを行っている。意見、要望があった場合、ミーティングや業務日報、毎月のケア会議などを通じて申し送り、職員間で共有を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や困難な場面对応については、随時報告をしてもらっている。意見を出しやすい環境づくりを継続し、職員間での定期的な情報共有ミーティングも行い、日々の業務に反映させる環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回の人事考課において、昇給、賞与を決めている。職員との面談時以外でも適時、要望や悩みなども聞き、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や環境などにより、アドバイスをしケアの実践に努めている。また、困っていることなど随時相談できる環境を作り、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社や施設開設前研修の受け入れ、勉強・交流の機会がある。ケアマネなどの施設見学や訪問がある。運営推進会議には同業者の出席もあり、相互に参加し、相談もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず面談を行い、利用者様ご本人の生活歴や心身状態を把握し、希望や要望を聞く機会を設けて、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接時より、家族からの希望や不安、心配ごとなどを聞き取り、適確なサービスがすぐに行える態勢を整えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様に応じた適確なサービスが行える対応に努めている。他のサービス利用については、関係事業所の担当者を含めた話し合い等を行い、適切な支援を行える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事、レク等の日常生活を通して利用者様、職員だけでなく、利用者様同士でもお互い協力したり、気をかけたり、ともに暮らす者同士で良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各ご家族の思いや、ご家族の関係を理解した上で、随時相談、話し合いを行うことで、利用者様本人を支えていく為の協力関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービス・小規模多機能の以前より知る利用者様との交流や、イベント等に参加するなどの支援を実施している。コロナウイルス自粛がはじまってから他施設との関わりができていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体で行うレクを実施したり、利用者様同士の関係を考慮した上で、座席の配慮や、支障なく関わり合えるような環境づくりに努めている。重度の認知症の方は特に孤立しないよう、意識して関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も、ご家族から連絡があれば、随時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の業務日報や申し送り、定期的なミーティングなどを通じて、利用者様の日々の言葉やヒアリングでの思い、職員の気づきなどを共有し合い、話し合うことで、実践に繋げるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントでこれまでの生活プラン等に配慮したプランを作成したり、日頃の利用者様との会話にしっかりと耳を傾け、把握、理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向や現状をもとに、「暮らしまとめシート」を作成し、職員は利用者様のできること、できないことに着目し、把握した上で、日々の介助や支援に携わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から挙げられた利用者様の日々の変化やモニタリングを通じて、家族や利用者本人様との話し合いで課題を挙げ、それに即した介護計画を作成している。更新、見直しなど月1の会議でユニット間の職員で話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとにケース記録、バイタル表、食分量、服薬情報、サービス内容の変更、連絡事項などを記入し、職員間の情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ごとの心身状況、家族の介護状況の変化にも目を配り、また相談しやすい環境作りを念頭に、随時適切な介護サービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じたイベント(遠足、祭り)、外出(外食、買い出し、散歩)などに参加したり、地域のボランティアの方には適宜、支援して頂き、地域とは深く関わっていたがコロナ自粛してから外出できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望したかかりつけ医、もしくは専属の病院の往診という形をとっている。通院は家族対応。専属の病院医師と家族間のICも適宜行っている。特変時は必要に応じ職員が受診に同行、説明し、医師より適切な指示を仰ぐ。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は看護職員に報告し、対応している。医療面では、看護師より家族に連絡し、受診する場合は適切な指示を受けられるように支援すると共に家族からの相談も受け付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院の相談員、看護師に伝えている。また、専属の病院からも入院先に情報提供をお願いしている。入院中は必要に応じ訪問し、退院に向けた情報交換や相談を行っている。職員間でも入院利用者様の情報共有をはかり、退院後の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から随時利用者様の家族には終末期についての希望や意思の確認を行っている。主治医、各関係事業所と連携を図りながら事業所としてできる支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングや研修を行い、利用者様の急変時の対応について話し合いや周知を図っている。また、各利用者について起こり得る事故や急変を想定し共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時は地域ボランティアの参加、協力を求め、平日頃より協力体制がある。訓練後は各職員が訓練の反省、全参加者から改善点を挙げるなどして今後活かすようにしている。今年度も地域住民と防災訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの基本はさん付けで呼ばせて頂き、利用者様の尊厳に気をつけて支援している。介助時は羞恥心に配慮し介助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導ではなく、利用者様本人が希望、要望を言いやすい環境づくり、雰囲気づくりに努めている。職員へもそのように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	工作、ゲーム、気の合う方との会話など、利用者様一人ひとりが希望する事、楽しみにしている事を把握し、選択できるようにしている。個々のペースに合わせた支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた身だしなみの支援、見守りを行っている。自己での判断が難しい方は、ワンピースにならぬよう、定期的な服の入替、衣類の選択が出来るように確認などの支援を随時行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房の職員が調理した食事を提供している。利用者様には食器拭き等行って頂いている。月一回のランチレクでは利用者様と職員と一緒に調理している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様ごとに適切な食事量、食事形態についての食事の名札を作成し、全職員が把握できるようにしている。食事量は毎回記録し、体調に応じて食べやすいよう、臨機応変に対応している。水分も体調に応じ確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品の準備、保管は事業所にて行い、自己にてできる方には声掛けと見守り、自己ケアが困難な方は程度に応じて、職員が介助し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、介助が必要な方には声掛けと誘導、自立している方は見守り、様子観察にて排泄感覚や失禁の有無を確認したり、必要に応じポータブルトイレを使用するなど、自立を主体に個別の適切な排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様ごとに排便状態や体調、服薬状況等を把握し、水分補給や運動、服薬等で便秘を改善できるように努めたり、頻繁に起こる方は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様、週に3回の入浴機会がある。利用者様の希望に合わせ順番等に配慮し、一人ずつゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう努めている。入浴剤を変えたりし季節を楽しむ工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や個人の休息の取り方、タイミングなど、利用者様本人の希望や意見を尊重し、適宜休息できるようにしている。食後や体調が優れない時など、本人の気分に合わせて休息しやすい環境づくりや支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服薬情報を個人ファイルに保管しており、全職員が把握できるようにしている。日々の状態を記録し、薬が変わった時や副作用が疑われる時、症状の変化等は家族、薬局、薬剤師と連携を図って症状を報告するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとにできること、得意なことを配慮し家事の手伝いやレクを行っている。コロナ自粛により庭へ散歩等し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気分に合わせて、戸外へ散歩に出かけるようにしている。地域行事や外出にもボランティアの方の協力を得て参加できている。家族へ喫茶に誘い一緒に行く機会があった。コロナ自粛から敷地外は出ていけない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い出し時は、利用者様ご本人の希望をお聞きして、買い物をしている。外食時も、ご本人が食べたいものを選んでもらって食事を楽しめる環境づくりの支援を行っている。コロナ自粛から敷地外は出ていけない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の方から電話があったら電話している。利用者様から希望があったら電話をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節に応じて、利用者様が作成した壁飾りを掛けて季節感を感じていただいている。利用者様が心地よく過ごせるような環境の提供を全職員が常に心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性等考慮し、座席やレクなどの配置を決めている。ご本人の希望に合わせ居室でゆっくり休んで頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と協力し、自宅で使い慣れた物などを配置することで、少しでも自宅にいた時と同じ環境に近づけることで穏やかに過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多数の手すりを設置し、歩行時に安心して掴まれるようにしている。トイレも余裕のある広さを確保しており、利用者様の出来る範囲内の自立動作を行いやすいようにしている。		